

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいの実小平		
○保護者評価実施期間	2025年11月27日		～ 2025年12月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2025年11月27日		～ 2025年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴支援とリハビリを中心とする支援。少人数制の利点である個別ケアを充実させており、体の状態の変化を早期に発見できる。	保護者・学校の先生と密に情報共有を行っている。PTも保護者面談に参加して子どもの成長に合わせたリハビリ計画を立てている。また指導員も積極的に子どもの体と関わるよう「リハビリカード」を作成し研修会を行っている。	長期休みや祝日など、学校でのリハビリができない日の運動を補っていききたい。長下肢装具などふだんは持参できない装具などの希望に応じていく。
2	医ケアのお子さんが安心して過ごせる場所の提供。	看護師2名体制でご家庭・学校・相談員などと連携し子どもの体調に合わせたケアを行い、また保護者へのアドバイスを行っている。腹臥位マットを複数用意し、気管切開のお子さんでも安全に排痰ができる。	医ケア児の割合が増えてきているため、今後は介護職員の喀痰吸引研修を視野に入れていく。また、医療的ケアで常時看護師の見守りが必要なお子さんの送迎については現在保護者をお願いしているが、事業所での送迎の希望が増えてきており今後対応のためのスタッフの充実が求められている。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブ・児童館との交流、地域の他の子どもとの交流が持っていない。また利用児童の兄弟支援の場も限られている。	長期休みや祝日などを利用して交流の機会を設けたいと思っており、施設でのコンサートに招待する企画を立てたが学校、学童共にポスター掲示を断られてしまった。その後働きかけをしなかった。	交流のきっかけを作るためにどのような方法が可能なのか、他の事業所や保護者、自治体からの情報収集から始めたい。兄弟児に関しては現在の夏祭り、コンサート以外にも足を運ぶイベントを考えます。
2	非常災害時、事故対応、防犯、感染症対策など緊急時対応の内容が保護者に徹底周知されていない	災害時訓練やBCPについては広報、ホームページでお知らせしているが結果的に消極的な周知となってしまった。各種マニュアルについては玄関に設置して閲覧可能だが、お迎え時などは保護者も急いでいるため手にして頂けていない。	保護者面談を利用して、各緊急対応については説明の時間を設ける。またその際、保護者の不安に思っていることなども聞きとり改善につなげていきたい。
3			